

十代の性 ～家庭・学校・地域全体でできること～

家庭・地域における取り組みに関するアンケート

本日は、お忙しいところ、当シンポジウムにお越しいただき、誠にありがとうございました。

千葉の街をより良い街にし、全国的な取り組みへと発展させるために、皆さまのご意見を頂戴できますと幸いです。

お答えいただいた内容に関しては集計処理をした上で、回答者が特定できない形で研究事業に使用いたします。

お手数をおかけいたしますが、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

以下の設問にお答え下さい。選択問題は当てはまるものに○（マル）をつけてください。

■あなた自身についてお答えください。

- (1) 性別(男一女)
- (2) 年齢 才
- (3) 住所 都道府県 市
- (4) 所属
- (5) 職業

■本日のシンポジウムのプログラムに関して 4 段階で評価してください。

(1)基調講演 「思春期外来より～子どもたちの心と体・性の現状～」

非常に良かった・まあ良かった・あまり良くなかった・全く良くなかった

(2)分科会 参加した分科会についてお答えください。

分科会① 地域全体での情報共有&アクションプラン作り～議論から行動へ～

非常に良かった・まあ良かった・あまり良くなかった・全く良くなかった

分科会② 娘たちとのコミュニケーション術～セルフケア力と自尊感情を高めるNLP～

非常に良かった・まあ良かった・あまり良くなかった・全く良くなかった

分科会③ 息子たちとのコミュニケーション術～親子コーチングスキルと本音の伝え方～

非常に良かった・まあ良かった・あまり良くなかった・全く良くなかった

分科会④ 親にも気持ちがある～親のネットワークづくりのためのアサーティブネス～

非常に良かった・まあ良かった・あまり良くなかった・全く良くなかった

■シンポジウムに参加して、10代の性の問題について、どのように感じましたか。

以下の問いにお答えください。

(1)10代の現状を知って、改善すべきと思った。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(2)家族の性への意識・家庭環境が性行動に影響することについて、認識が高まった。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(3)性感染症教育が性行動に影響することについて、認識が高まった。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(4)デート・性交渉場所が性行動に影響することについて、認識が高まった。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

■分科会に参加しての、ご感想をお聞かせください。

・分科会①にご参加の方にお尋ねします。

(1) 分科会に参加したことによって、地域全体で協力することの重要性に関する理解が深まった

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(2) 分科会に参加したことによって、自分以外の団体・地域の取り組みに関する理解が深まった

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(3) 今回のようなワークショップを開くことは、地域全体での取り組みを進める上で

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

・分科会②～④に御参加の方にお尋ねします。

(4) 分科会に参加したことによって、コミュニケーションのとり方の知識が深まった

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(5) 今回のようなワークショップを開くことは、日常の子育てを行っていく上で

非常に効果がある・まあ効果がある・あまり効果はない・全く効果はない

・すべての方にお答え願います。

(6) ワークショップを受けて、具体的にこうしてみようと思うことは为什么呢。

(7) 保護者に対する講演会やワークショップで提供して欲しい情報など、保護者向けの事業に関し、自由なご意見をお聞かせください。

(8) その他 10 代の性の問題に効果的な取り組みに関し、自由なご意見をお聞かせください。

■10代の性の問題を解決するための、地域の取り組みについて御意見をお聞かせください。

(1) あなたの住む地域の思春期の性に関する事業について、あなたの評価をお答えください。

高く評価する・まあ評価する・あまり評価しない・全く評価しない

(2) 自治体が思春期の性に関する事業をさらに推進すべきだと思う。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(3) 市民団体が主体となって思春期の性に関する事業を推進すべきだと思う。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

(4) 自分も何らかの形で活動に参加してみたい。

非常に当てはまる・まあ当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない

ご協力ありがとうございました。

「全国における多機関協働による思春期事業 の推進のための支援ツールの開発」

分担研究者 近藤 正晃 ジェームス

日本医療政策機構副代表理事

研究要旨

青少年が健やかに思春期を過ごすためには、地域全体の協力体制が必要である。学校、行政に加えて、家庭や地域を巻き込んだ取り組みが不可欠であり、連携から協働へ向けた取り組みが求められている。また、平成18年度の当研究班の研究結果から抽出された「時間的余裕」、「家族の性への意識」、「デート・性交渉場所」といった性行動変数・環境変数への対策をするためには、まちづくり関係団体など、従来以上に幅広い多機関の巻き込みが必要となる。

そこで、思春期事業の全国展開に向けて、先駆的な事業を行っている釧路市の知見を参考に、多機関協働を促進するための支援ツールの開発を行った。北海道・千葉県における対策プログラムの立案・実行と並行し、ビジネスや環境教育等の分野で多機関協働の促進に有用とされているファシリテーションのスキル等に関し検証を行い、その結果を各地域における思春期事業担当者向けの使いやすいマニュアルにまとめた。また、マニュアルは使い方も含めてWeb上に載せることで、簡便に入手・入手の上、地域の実情に合わせて変更可能なものとした。

一定の講習を受けたものが、本マニュアルを地域の実情に合わせて、地域のデータをもとに活用することで、地域主体の多機関協働による課題解決が比較的容易になるであろう。

A. 研究背景

本研究の平成 17・18 年度研究における 10 代男女の性行動に関する全国的な実態調査の結果、望まない妊娠や性感染症に直結する変数として計算した「非避妊換算性交渉回数」を減少させるのに効果的な性行動、および、性行動の抑制に効果的な環境要因は、地域によって異なることが明らかとなった。そのため、これらに対する政策的打ち手も地域によって異なり、細かい対応が必要であることが確認された。また、性行動を抑制するために日本全体において効果的な環境要因として、「時間的余裕」、

「家族の性への意識」、「デートの場所」、「性交渉場所」というキーワードが抽出され、こうした環境要因への対策のためにも学校、行政に加えて、家庭や地域を巻き込んだ地域全体の協力体制が必要であることが確認された。

【図 A.1 : 平成 17 年度・18 年度研究から抽出されたキーワード】

しかし、思春期の性に関する問題は、センシティブな話題であり、問題解決のための議論が、感情的・保守的になりやすい傾

向がある。また、本領域におけるステークホルダーは、それぞれ特有のバックグラウンドや学問的専門性を持ち、共通言語が異なるため、異なるステークホルダー間の協働は容易ではない。さらに、地域全体での取り組みに向けて、行政における縦割りや、地域における異領域の壁を乗り越えた幅の広い協力体制が必要であり、それぞれ現状認識や意欲に大きな相違が存在する。

こうした困難にも関わらず、北海道釧路市等一定のレベルで協働を成功している地域が存在しているが、それらの知見は他自治体において十分に共有されているとは言いがたい。

また、男女共同参画等、広く市民を巻き込んだ協働が必要であり、実際に協働に向けて成功している他分野が存在しており、そうした他分野の知見の活用を行うことで、思春期の性の問題においても、協働の促進が期待される。

B. 研究目的

本研究の目的は、本年度の他研究において確立した地域の現状に合致した対策案を中心に、全国の各地域において多機関協働で立案し、実施し、モニターすることを支援するためのツールを開発することにある。

具体的には、北海道釧路市と千葉県千葉市において、それぞれの地域に特徴的な性行動・環境要因に影響を与えうる多機関を集め、効果的な議論形成の上施策立案し、それを実施の後、フィードバックを行なうという一連の流れを実施し【図 B.1】、その過程の中で多機関協働を促進する上でのボトルネックとなりうる問題点とその解決策

に関して、男女共同参画や街づくり等における多機関協働事例を中心に検討し、支援ツールを作成することが目的である。

【図 B.1 : 今回の研究概要】

C. 研究方法と結果

本報告書の性質から、方法と結果に関し、まとめて記載する。

1. 地域における多機関協働事例の検討

1.1. 北海道釧路市における検討

平成 18 年度の本研究において、北海道釧路市における多機関協働の成功の秘訣として、保健師である行政担当者を中心とした、高校生向けの対策に始まる地道かつ綿密な対策の実施や、地域のデータを提示することによる PTA の巻き込み、性の知識だけでなく「生き方」教育を行っていること、メディアの活用などが挙げられた。

しかし、本研究班の提案する対策案の立案・実施¹に際しては、更なるステークホルダーの巻き込みが必要とされたこともあり、新たなステークホルダーを含めた協働に向けての困難は大きかった。今後、釧路市の事例を適応する他の自治体ではいくつかの障害が予想される【図 C.1】。これらの問題点の解決のためには、ビジネスの場面を始め、男女共同参画や街づくり等における多機関協働事例や、特別支援教育や環境教育など様々なフィールドにおいて近年注目されているファシリテーションの技法の有用性が示唆される。

¹ 詳細に関しては分担報告書「北海道釧路市における思春期事業に関するパイロットスタディ」参照。

【図 C.1 : 鉚路市におけるパイロットスタディから抽出された問題点】

【図 C.4 : パイロットスタディから抽出された問題点】

1.2. 千葉県における検討

上記の問題点と、そのファシリテーションの活用による一定の解決の可能性を踏まえて、都市圏である千葉県千葉市においても多機関協働を促進するため、本研究班の提案する対策案の立案・実施²をした。特に最終的な対策案の立案並びに各個人がすぐに取り組む内容をより容易に導くべく、鉚路市においては通常の会議形式で行った検討過程をワークショップ形式にて行った【図 C.2】。多機関協働マップの作成【図 C.3】を通じて存在する多様なステークホルダーの確認を行う等必要な情報を効率的に共有し、またワークショップ全体の支援をしっかりとファシリテートすることにより一定の成果を導くことが可能となった。

【図 C.2 : 千葉市における多機関協働のためのワークショップ】

【図 C.3 : 多機関協働マップの例】

また、千葉県内では比較的協働が進みつつある八千代市において、意見交換を行い、先進事例としての鉚路市の事例を共有することで、八千代市における思春期保健事業の推進に寄与すると同時に、鉚路市・千葉市にて示唆された施策立案・実施上の問題点が同様に存在することが確認され、全国共通の問題として、【図 C.4】に挙げるような問題点が存在することが示唆された。

2. 多機関協働のためのマニュアルの作成

平成 18 年度本研究における地方郊外・都市圏・中間地域に相当する上記 3 地域でのパイロットスタディを通じて抽出された問題点を解決する方法としてのファシリテーションの技法の活用の可能性から、ファシリテーションの専門家の監修・協力の下、『多機関協働による思春期の性の問題解決のための会議運営・ファシリテーションマニュアル』(以下マニュアル)の作成を行った【図 C.5】。マニュアルの内容としては、地域行動計画³もしくは医療計画、母子保健計画策定の手順と同様の手順において、地域の思春期保健事業の担当者が多機関の関係者による会議を実施するにあたって有益なものとなるよう、ファシリテーションの概説、会議前後に役立つツール、ワークショップを通信とした地域向けの具体的なプログラム【図 C.6】につき記載した。

【図 C.5 : マニュアル概要】

【図 C.6 : 地域向けプログラムの具体例】

3. マニュアル内容の検討

作成されたマニュアルの内容の全てを試験的に実施してみたところ、提案するプロ

² 詳細に関しては分担報告書「千葉県における思春期事業に関するパイロットスタディ」参照。

³<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/syousika/030819/2.html>

グラム内容を一日で全てこなすのは困難であること、実施にそれなりのファシリテーションのスキルが要求されることやその他細かい内容等、いくつかの改善点が明らかとなった。

そこで、それらの問題点につき改善の上、千葉県八千代市にて本マニュアルを利用したワークショップを八千代市思春期保健ネットワーク会議のメンバーと相談の上、平成20年2月26日に八千代市保健センター会議室にて実施した【図 C.7】。

ワークショップでは、レジュメを元に外部講師からファシリテーション全般に関する簡単なレクチャーがあり、その後「中学生の性教育を推進するために関係者は何をすればいいか？」をテーマに、5人ずつのチーム内でファシリテーターを含めた役割分担の下、ワークショップを行った。ワークショップを通して得たテーマへの答えを各々のチームがプレゼンテーションした後、振り返りが行われ、それぞれの役割における注意点等が講師から説明され、各参加者の気づきが深まった【図 C.8,9】。

【図 C.7 : 八千代市におけるワークショップ】

【図 C.8 : 八千代市におけるワークショップからのフィードバック】

【図 C.9 : 八千代市におけるワークショップからのフィードバック 2】

ワークショップ実施中、講師は話し合いが滞っている時、あるいは方向がずれているときのみ、下記のような声かけによる介入を行い、進行の補助を行った。

・役割について

「それぞれの役割を意識しながら話を進めてくださいね」

・言葉の共有化について

（「ピア」という語に対して）「もう少しわかりやすい言葉ってないですか？」

・思考のフレームを提案する

「ここで強み／弱みで考えてみたらどうですか？」

・問いを立てる

ファシリテーターがわかっていることでもあえて疑問府で聞く。メンバーの理解を深めるため。

（「関係者」という語に対して）「関係者ってどんな人ですか？」

「親が性教育を受けていないから、子どもへ性教育できないの？」

・繰り返しについて

メンバー自らの気づきから発言したことだと思わせる手法。ファシリテーターが言ったから、という強制力を排除することができる。これがポイントだと思ったとき、メンバーが言った言葉をそのまま繰り返すことで、その言葉を強調し、メンバーにそれとなく気づかせる。

・収束→ゴールに向けて

「これらの意見をどうやって収束させますか？」

「よく眺めてみてくださいね。」

「ここが、「溝」なんですね。」

「そろそろ収束に入って結論を出してくださいね。」

4. マニュアルの最終化・公開

本ワークショップの結果を踏まえて最終化がなされたマニュアルを Web ページ⁴にて公開し、実際に全国の地域にて簡便に入手・改良できるようにした。

D. 考察

近年、行政と NPO の連携・協働といったことが様々な領域で言われている。

思春期の性に関する問題を解決するためにも、学校、行政に加えて、家庭や医療機関、市民団体など、地域全体の協力体制が必要であり、地域固有の問題への対応のため、地域の実情をよく知る多様なステークホルダーによる発展的な議論とその結果としての多機関協働による取り組みが不可欠である。

しかし、思春期の性に関する問題は、センシティブな話題であり、問題解決のための議論が、感情的・保守的になりやすい傾向がある。また、本領域におけるステークホルダーは、それぞれ特有のバックグラウンドや学問的専門性を持ち、共通言語が異なるため、異なるステークホルダー間の協働は容易ではない。さらに、地域全体での取り組みに向けて、行政における縦割りや、地域における異領域の壁を乗り越えた幅の広い協力体制が必要であり、それぞれ現状認識や意欲に大きな相違が存在する。

このように、思春期の性に関する問題解決は、多くのボトルネックが存在し、議論においてコンフリクト(対立)が生じやすい。そのため、場の設定から、取り組みの実施、さらにはその取り組みの結果のフィードバックにいたるまで、ステークホルダー間を

取り持ち、建設的に議論を展開・収束させるファシリテーション(協働促進)が必要となる。また、ファシリテーションの手法により、個人による解決策以上の解決策が生まれるのみならず、意思決定過程への参加を通じて各ステークホルダーの動機付けの高まりが期待される。

今回、そうしたファシリテーションの方法を含め、思春期の性の問題に対し、地域において実際に多機関協働による取り組みを実現するための簡便にして有用な手段として本支援ツール(マニュアル)を開発した【図 D.1】。

【図 D.1 : 思春期保健事業におけるファシリテーションの意義】

ただし、実際に各地域において会議を実施した結果から、本マニュアルのみでは、ファシリテーターの力量次第でまだまだ会議の成否のばらつきが予測され、【図 C.4】に挙げたような問題点が十分に解決するとは限らない。また、本研究班による今回の研究結果は「望まない妊娠・人工妊娠中絶」に焦点を置いたものであったため、例えば性感染症に関するデータは各地域の施策立案のためには不十分である。さらに、データの収集の困難や金銭・人員面での困難等地域のみでは解決しきれない部分が残る。そこで、例えば【図 D.2】に示すように、中央政府における「健やか親子 21 公式ホームページ」の内容の充実等を中心としたインフラの整備と同時に、モデル地域の策定の上で、当該地域において十分な講習を受けた「思春期保健事業コーディネーター」の育成を行い、地域モデルごとの事業展開

⁴ <http://healthpolicy-institute.org/>

の結果としての成功事例の蓄積と、ノウハウの共有化を推進することが、全国への効率的な展開に向けて望まれる。

【図 D.2 : 取り組みの 10tep(提言)】

E. 結論

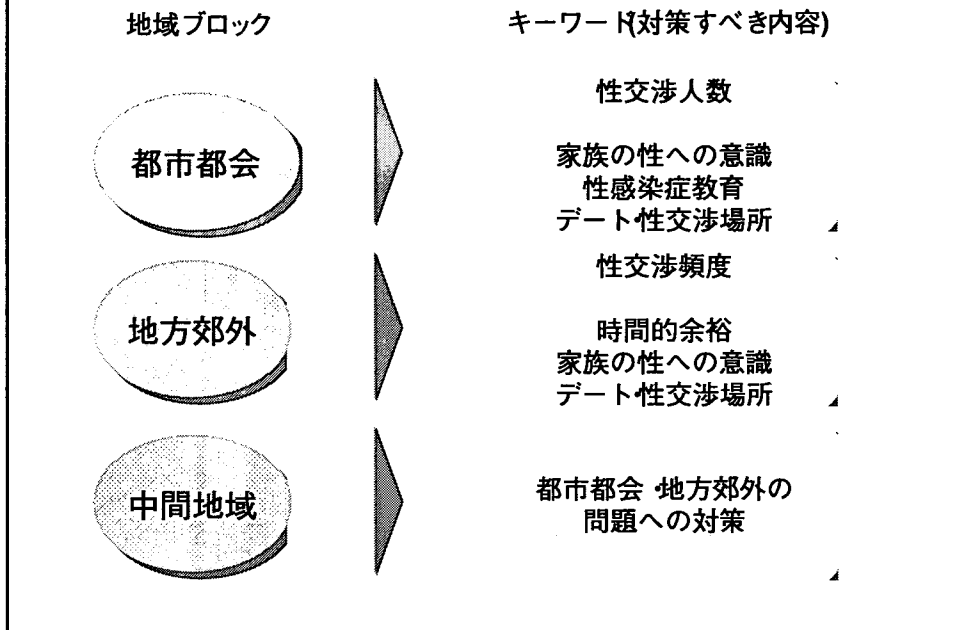
全国の各地域にて活用可能な支援ツールとして、本研究班の研究成果を元とした地域別の多機関協働による対策案の実施推進を目的としたマニュアルの開発を行った。

今後は、本マニュアルを各地域に実情に応じて適宜改変の上、活用し、また、同時に、可能であれば、モデル地域策定の上、地域における思春期事業のコーディネーターを一定の講習によって養成することで、地域の実情に合わせた多機関協働による対策の更なる推進が期待される。

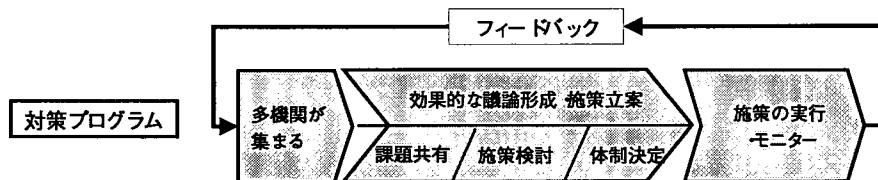
謝辞

本研究は日本ファシリテーション協会会長の堀公俊氏並びに株式会社ライフキャリアデザインの川端美智子氏をはじめ多方面からの御協力を得て行われました。感謝を表します。

図A.1 平成17年度・18年度研究から抽出されたキーワード



図B.1 今回の研究概要



地域	中絶率	連携	パイロット・スタディ				
			事前打合せ	Love Project in 946	青少年活動拠点センター	関係者検討会	Love Project in 946 参加者アンケート 2次検討会
釧路	高	有	○	○	○	○	△
			関係者検討会	関係者検討会	千葉市シンポジウム	関係者検討会	千葉市シンポジウム参加者アンケート
千葉	中	低	○	△	○	○	△
			関係者検討会	関係者検討会	千葉市シンポジウム	関係者検討会	千葉市シンポジウム参加者アンケート

図C.1 釧路市におけるパイロットスタディから抽出された問題点

- 多様なステークホルダーの巻き込みが困難である
- 各人毎に問題意識に大幅な差が存在する
- 各人の取り組みの現状の共有が不十分となりやすい
- 話題の脱線等の存在から、生産的な議論と参加者の満足感の向上の両立が図りにくい
- 会議の時間的マネジメントが困難である
- 会議の結果から行動に結びつけるのが困難である
- 思春期の性に関する詳細なデータの回収が困難であるため施策のモニターも不十分となることがある
- 行政における予算・人力的限界が存在する



上手なファシリテーション(協働促進)が求められる

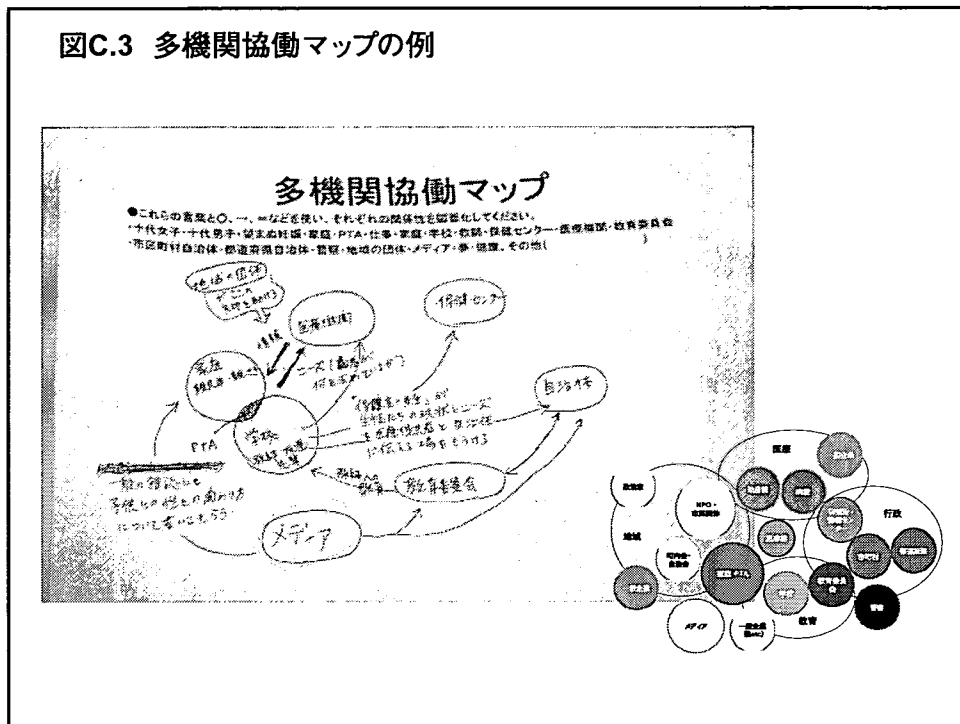
図C.2 千葉市における多機関協働のためのワークショップ

ワークショップ概要

1. 多機関協働の成功事例の紹介
ゲスト: 八千代市思春期ネットワーク会議 会長
2. 参加型による情報の共有と目的の明確化
3. 多機関協働マップづくり
4. 地域のアクションプランづくり; 3つの課題をテーマに
5. ふりかえり ~明日から始めること~



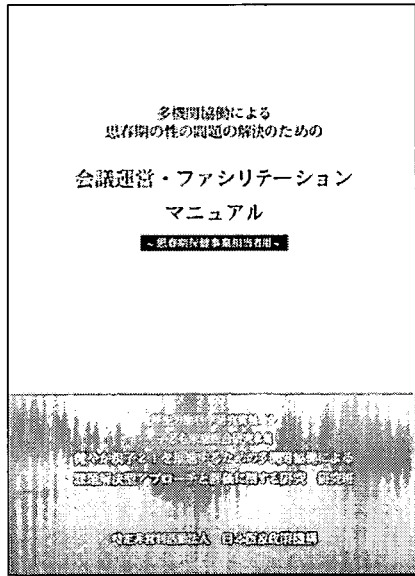
図C.3 多機関協働マップの例



図C.4 パイロットスタディから抽出された問題点

	どのような人・機関が存在するかわからない
	どのように会議等を設計すれば良いかわからない
事前準備	会議の準備が不十分だ
課題共有	会議の導入がうまくいかない
	メンバー間の対立が起こる
施策検討	課題の共有が進まない
	意見が出ない
体制決定	議論が進まない
	役割分担がうまく進まない
施策実行モニター	上記の対策をしているのに会議の成果が出ない
	決定した施策が実行されない
	実行したっさりになる (モニターされない)
	実行した結果クレームが来た
	PRの仕方がわからない、不十分である
	他の地域との情報共有が進まない

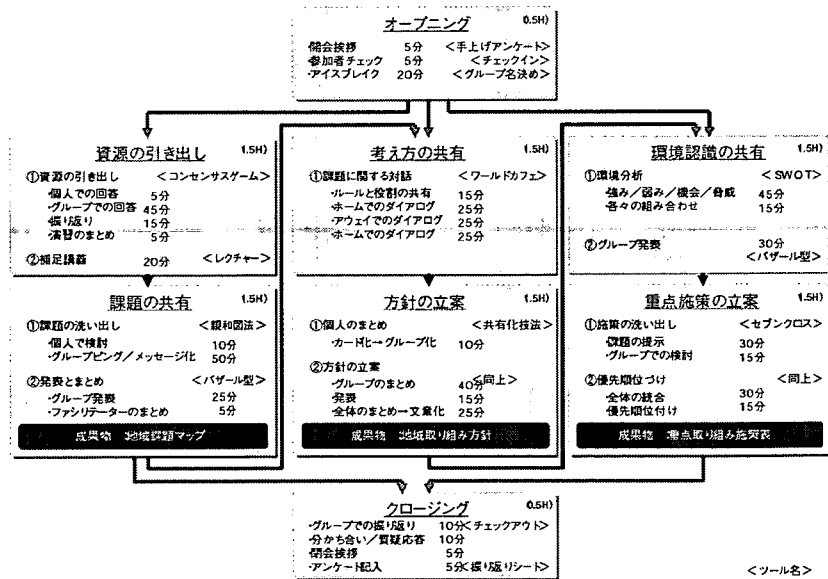
図C.5 マニュアル概要



目次

- はじめに
- 本マニュアルの使い方
- 多機関協働の支援ツールとしてのファシリテーション
- 会議当日までの準備
- 地域向けプログラムの具体例
- 会議後の連絡 調整
- おわりに

図C.6 地域向けプログラムの具体例

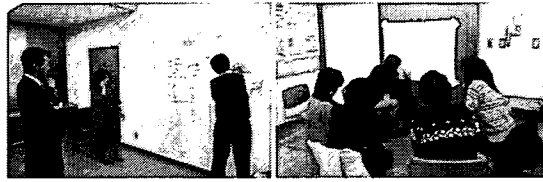


図C.7 八千代市におけるワークショップ

日時 2008年2月26日18:30~21:30

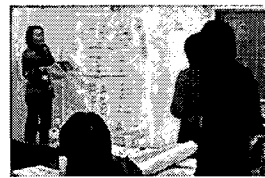
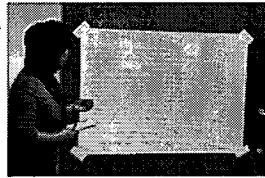
場所 八千代市保健センター

参加者 八千代市思春期保健ネット
ワークメンバー他



内容概略

- ファシリテーションに関するレクチャー
- ワークショップ 中学生の性教育を推進するために関係者は何をすればいいか？」
- 振り返り



図C.8 八千代市におけるワークショップからのフィードバック

ファシリテーターのあり方

今、何を話し合っているか、コンテンツを進めながら、コンテキストに気を配る。場を読み、人を読む力が必要。

5つのスキル*を駆使してファシリテーションをする必要があるが、その中でも最もベースになるのはコミュニケーションスキル。

・意識的、無意識的にネガティブになると場もネガティブになる。

・どんなことが起きようと、そこにあるもの全てを利用する。

・ピンチはチャンス。ピンチを楽しむのもファシリテーターの力。

話し合いのフレームを知っておくことがファシリテーターの武器となる。

話し合いの見通しを持って話し合いをスタートさせないとうまくいかない。

*ファシリテーターの基本スキル

- ①場をデザインするスキル
- ②非言語コミュニケーションスキル
- ③言語コミュニケーションスキル
- ④整理のスキル
- ⑤合意形成のスキル

図C.9 八千代市におけるワークショップからのフィードバック2

グラフィッカーの役割

- ・グラフィッカーは、全体状態を把握することができるポジションであり、本当の意味でのファシリテーターであるかもしれない
- ・ペンを持つものは場を制することができる
- ・小道具として、ポストイットなどを活用することで多様な意見を整理することができる

盛り上げ係りの役割

- ・シャンシャン会議などで、ファシリテーターがそれに気づかず進めてしまう場合、ファシリテーターがコンテンツに終始してしまってコンテキストに気づかない場合など、第2ファシリテーター的な調整役として役割を担うこともできる

タイムキーパーの役割

話し合いが進んでいるときに勢いを止めるような声掛けは難しいが、場を読みながら、その場にあった声掛けや表示の仕方などの工夫をして、時間管理をすることが必要。

タイムキーパーの対応を受けてファシリテーターが、「みなさん時間ですがどうしますか？ 伸ばしますか？ ここで一旦やめますか？」など、決定を場に返していくことができる。

図D.1 思春期保健事業におけるファシリテーションの意義

思春期保健事業の特徴

- ・ 地域固有の問題がある
- ・ (根拠となるデータが少な) 生み出した成果に正解はない
- ・ センシティブな話題
- ・ 議論が保守的になりやすい
- ・ ステークホルダー間のバックグラウンド・共通言語が異なる
- ・ 利害や価値観の違いからコンフリクト(対立)が生じやすい
- ・ 多様なステークホルダーの関与が必要

多様なステークホルダーによる協働が不可欠であり、
ボトルネックを乗り越えるためには
ステークホルダー間を取り持ち、
発展的な議論を展開・収束させる
中立的なファシリテーションが
必要である

いかに納得性と合意の質を高めるかが重要となる
⇒ 結論そのものよりも、
結論に至るプロセスが重要

図D.2 取り組みの10step(提言)

		中央政府	地域
Step 1	重点地域の決定(保健所・市町村保健センター単位で10程度全国のモデルとなるように選定)し、地域計画化(3ヶ年・5ヶ年)	✓	
Step 2	重点地域に思春期保健事業コーディネータ配置	✓	✓
Step 3	思春期保健事業コーディネータに対するファシリテーション等の講習	✓	✓
Step 4	コーディネータを中心に多機関で、当該地域における有効性が示唆された指標に関わる体系的なデータを収集	✓	✓
Step 5	収集されたデータをもとに、一般市民を含めた多機関で会議(少なくとも6回程度)を開催し、地域における対策を立案		✓
Step 6	全国のコーディネータが、立案された計画を持ち寄り、情報共有・再講習	✓	✓
Step 7	地域に持ち帰り、再検討の上、計画を実施		✓
Step 8	事業実施後のデータを経年でモニター	✓	✓
Step 9	中央・研究機関において各地域の取り組みをデータをもとに分析・フィードバックするとともに、ノウハウの蓄積・共有を行う	✓	✓
Step 10	コーディネータを中心として、全国に拡大する	✓	

☞ 10地域で実施するための費用は、概算で5年間で2億円程度

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
------	---------	---------------	-------	------	-----	-----	-----

なし

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
-------	---------	------	----	-----	-----

(今後発表予定)